

「挑戦し続けるたくましさ」を育むために ～令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果から～



1 はじめに

高山市の子どもたちのよさや課題について、より広く市民の皆様を知っていただくとともに、学校・家庭・地域で情報の共有を図ることにより、更なる「協働」した取組みを進めるため、「全国学力・学習状況調査」の結果を公表いたします。

各学校の得点（正答率）については、学校の序列化や過度の競争、個人の特定につながる恐れがありますので、公表はいたしません。子どもたちの健やかな成長を願い、市民の皆様にもご理解いただきますようお願いいたします。

2 全国学力・学習状況調査の概要

(1) 調査の目的

- ・ 高山市教育委員会と市内全小中学校では、全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握し、各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために調査に加わっています。

※ただし、調査の結果は児童生徒の学力の一部を示すものであり、この結果のみで児童生徒の学力の全体を判断できるものではありません。

(2) 調査の対象学年

- ・ 高山市内の全小学校の第6学年の児童と全中学校の第3学年の生徒

(3) 調査の内容

- ・ 今年度、小学校では国語・算数・理科に関する調査、中学校では国語・数学・理科に関する調査、小中学校共に生活の諸側面や学習意欲等に関する質問紙調査を行いました。

(4) 調査日

- ・ 令和4年4月19日（火）

3 高山市における調査結果の概要

(1) 児童・生徒の学力の状況について【学力調査から】

全国平均正答率と比較した市の状況をまとめました。

※表記方法:市の状況を、全国平均正答率と比較して下記の5つの記号で表記しています。

「▲」: -5.0以下 「△」: -4.9~-1.1 「※」: -1.0~+1.0 「○」: +1.1~4.9 「◎」: +5.0以上

科目	対象学年	小学校6年生		中学校3年生	
		高山市	全国 (%)	高山市	全国 (%)
国語		△	65.6	○	69.0
算数・数学		△	63.2	※	51.4
理科		※	63.3	○	49.3

【学習所見について】

<国語>

- ・小学校では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「書くこと」(文章の構成や展開を明確に捉えて書く)について、力を付けています。一方、漢字を文の中で正しく使う力や、本文や選択肢を正確に読み取る力の向上が求められます。
- ・中学校では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」で力が定着しています。一方、描写を基に捉えて読む力の向上が求められます。

<算数>

- ・小学校の算数では、除法で求める理由を記述する力や、分類整理されたデータを基に目的に応じて特徴を捉えて考える力が付いています。一方、割合を用いて計算する力、答えの求め方や図形の構成の仕方を書いて説明する力の向上が求められます。
- ・中学校の数学では、簡単な連立方程式を解くこと、確率の意味や三角形の合同条件の理解は定着しています。一方、素因数分解をすること、筋道を立てて考え、事柄が成り立つことを説明する力の向上が求められます。

<理科>

- ・小学校では、観察の視点を基に考えたり、問題の視点で分析したりする力が付いています。一方、観測データ等を基に結果からいえることを考える力の向上が求められます。
- ・中学校では、条件制御した実験を考えること、化学変化に関する知識及び技能について、力が付いています。一方、観測データ等と関連付けて観察や実験の結果を解釈する力の向上が求められます。

→上記の結果を踏まえ、学校の授業では、どの教科においても、条件や目的に合わせて根拠を明確にして自分の考えをもつように指導すること、子どもの学ぶ様子を見てそれぞれのペースに合った学びを支援すること、自分の考えを基に対話を通して大切なことを理解するように指導することに取り組みます。

(2) 学習に対する意識について【質問紙調査から】

(記号の表記は学力と同様。数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という肯定的な回答の比率)

質問項目	小学校6年生 (%)		中学校3年生 (%)	
	高山市	全国	高山市	全国
授業では、課題の解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいましたか。	◎	77.3	◎	79.2
学習について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	※	78.2	◎	74.7
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	○	80.1	◎	78.7
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	△	65.4	※	63.3
国語の勉強は好きですか。	▲	59.2	△	61.9
国語の授業の内容はよく分かりますか。	○	84.0	※	81.2
算数・数学の勉強は好きですか。	△	62.5	※	58.1
算数・数学の授業の内容は、よく分かりますか。	○	81.2	※	76.2
算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	※	69.3	※	47.3
理科の勉強は好きですか。	△	79.7	◎	66.4
理科の授業の内容はよく分かりますか。	※	87.7	◎	75.2
理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	※	67.9	○	52.7
学校で、友達と意見を交換する場面で、I C T機器をどの程度使用していますか。(ほぼ毎日～週3回以上)	◎	22.5	◎	17.8

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善への取組みについては、次のとおりです。

○児童生徒の多くが、課題解決に向けて主体的に取り組んだり、次の学習につなげるように学んだり、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりしていると答えています。

△小学校の国語・算数・理科、中学校の国語で、「勉強が好きだ」と答えた児童・生徒が、全国平均より低い傾向にあります。

→学校では引き続き、児童生徒が主体的に学びに向かう姿勢を大切にしながら、学習内容と日常生活のつながりを実感し、大切なことを確実に学びとるよう授業改善に取り組めます。また授業では、自分のペースで学びを進めたり、仲間との対話を通して自分の考えを広げたり深めたりする支援に努め、教科に対する関心や好感度を高められるようにしていきます。そのために、一人ひとりの学びを見届けるツールとして、I C T機器を有効に活用していきます。

(3) 「達成感」と「貢献感」、「生活」に関する質問紙の状況について

質問紙の結果を、高山市小・中学校教育の重点「挑戦し続けるたくましさの育成」～達成感と貢献感を積み重ねることが挑戦するエネルギーになる～に関わる、下記の項目の傾向をみてみました。

(記号の表記は学力と同様。数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という肯定的な回答の比率)

	項 目	小学校6年生 (%)		中学校3年生 (%)	
		市	全国	市	全国
達成感	自分にはよいところがあると思いますか。	○	79.3	◎	78.5
	将来の夢や目標を持っていますか。	○	79.8	○	67.3
	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。	○	87.2	○	86.6
	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	○	72.5	○	67.1
貢献感	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	○	95.1	○	95.0
	人が困っているときは、進んで助けていますか。	○	88.9	◎	88.4
	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	◎	52.7	◎	40.0
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	▲	51.3	◎	40.7
生活	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	○	96.8	○	96.4
	家で、自分で計画を立てて勉強していますか。	※	71.1	◎	58.5
	朝食を毎日食べていますか。	○	94.4	○	91.9
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	○	81.5	○	79.9
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	○	90.4	○	92.2
	学校に行くのは楽しいですか。	○	85.4	○	82.9

<達成感に関わって>

- ・「自分にはよいところがあると思う」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と答える児童生徒が全国平均を上回り、自尊感情や自己肯定感が高い傾向があるといえます。
- ・将来の夢や目標を持ち、挑戦を続けるたくましさを持つ児童生徒が多くいます。

<貢献感に関わって>

- ・「地域の行事に参加している」と答えた児童生徒は、小・中学校ともに、全国平均より高い傾向にあり、地域の方の協力による成果と捉えています。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と答えた中学生は全国平均より高く、自分たちにできることを見つけて活動する場を工夫して地域の活動に参画していることが分かります。小学生の値の低さは、コロナ禍による活動制限の影響があると考えられます。

<生活に関わって>

- ・コロナ禍においても、各家庭で、規則的な生活習慣や学習習慣を大切にしておられ、全国平均より高い傾向にあります。

4 全国学力・学習状況調査結果の活用について

コロナ禍が続く大変な状況の中でも、「学校での学習時間以外に、普段（月～金）、1日当たり勉強する時間」、「普段、1日当たりテレビゲームをする時間」、「朝食を毎日食べているか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか／起きているか」といった項目については、この2年間では大きく生活を崩すことなく過ごすことができていることがうかがえます。

ここまでみてきた結果から、高山市の児童生徒は、保護者や地域の方々の温かい眼差しと声掛け、各学校の取組みによって、「達成感」や「貢献感」を味わい、成長している子が多いことが分かります。引き続き、児童生徒が自分の将来の目標に向けて、学習・生活を主体的に充実させていくように育てていくことを大切にしたいです。

今後も、子どもたちのたくましさや育む関わりを大切に、引き続き課題解決に向け、学校・家庭・地域が協働して取組みを進めていただきますようお願いいたします。

【学校では】

- 児童生徒が、「貢献感」や「達成感」を感じて生活できるように、一人ひとりの「なりたい自分」の姿を明確にし、失敗を恐れず挑戦する姿について、教師や仲間からの認めや励まし、価値付けを大切にします。また、児童生徒が課題を見つけ、解決のために行動し、取り組んだこと・学んだことを丁寧に振り返って、次への一歩につなげられるように、対話を通して一人ひとりに寄り添った支援を行っていきます。
- 学習では、ICT機器を活用して一人ひとりに目を向け、個別にきめ細かな支援を行います。学力向上のための指導改善プランをもとに、授業改善や教師の資質向上を兼ねた研修会を実施し、児童生徒の「学びに向かう力」を高めるよう、高山市や自校の課題解決に向けた取組みを継続します。
- 今後も、児童生徒の心に寄り添い、安心して相談できる体制づくりに努めます。

【家庭では】

- 食育（朝食の摂取や栄養バランス等）や眠育（早寝早起き、睡眠時間）、スマートフォンなどの機器の扱い（ゲームやSNS・動画の視聴等）に関して生活習慣を見直すことは、自分で時間を考えて使うことにつながり、学力を身に付けていくうえでも大変重要です。お子さんが幼いうちから、意識して正しい生活リズムを身に付けられるよう導いてあげることが大切にしてください。
- 長引くコロナ禍の影響により、不安を抱えている児童生徒もいます。学校では子どもたちと保護者の皆さんとの対話を大切にしたいと思っています。心配なことは遠慮せず、ご相談ください。また、家庭でもお子さんとの対話の時間を増やし、学校の様子を話題にして、お子さんが挑戦したことを認め励まししながら、意欲や主体性を育てていただくようお願いいたします。

【地域では】

- 「地域の子どもの目指す姿」を大切に、まちづくり協議会や地域団体と連携しながら、体験活動や地域の方とのふれ合いから学ぶ機会を積極的に設けていただきました。今後も、それらの活動での子どもの様子や地域での生活の様子を認め励ましていただくよう温かな声掛けをお願いします。
- 地域の方との体験活動やふれ合いなどのおかげもあり、長引くコロナ禍においても、高山市中学生の「地域や社会をよくするために何をすべきかを考える」力が向上しています。引き続き、持続可能な社会づくりの視点からも、地域が抱える課題や、地域で困っていることについて、子どもたちとも一緒になって考えていただくようお願いいたします。

5 公表方法

- (1) 高山市ホームページに掲載し、保護者を始め一般市民が閲覧できるようにします。
- (2) 各学校では、これまでと同様に独自の分析を行い、保護者や地域にお伝えします。

